

薬だつ知識

最近では、漢方薬を過去に服用したことがある、あるいは今現在も続けて服用している、という方は多いのではないだろうか。現在、私たちが薬として服用している漢方薬の起源はおよそ二千年以上前の中国にさかのぼります。レントゲンも、抗生物質も、点滴もない時代の医学ですが、きちんとした理論体系のもと、多くの臨床治療を記載した書物が基本になっており、現代風にいえば、エビデンスにのっとった学問です。

西洋薬は有効成分が単一のもが多く、その作用機序(体に作用する仕組み)が解明されている一方で、漢方薬は植物そのものを薬として複合的に合わせています。これまで作用機序の解明は進んでいませんでしたが、近年、科学的に明らかになってきています。

例えば、漢方薬は風

腸内細菌の影響で個人差

邪など急性疾患には比較的即効性があるといわれますが、特に慢性疾患では長く服用しないと効果が出ない、といわれることがあります。

このような漢方の効果発現には、最近話題の腸内細菌が影響していることが分かってきました。腸内細菌は個々の体質や食生活などでそれぞれ大きな違いがあります。

漢方薬を服用し、その有効成分が腸から吸収される際に、分子量の大きな配糖体と呼ばれるものは吸収されにくく、腸内細菌によって配糖体が切断された後に有効成分が腸から吸収されます。その配糖体を切断する腸内細菌を持つている人は、漢方薬が効きやすく、持っていない人は効果が出るまで時間がかかるというわけなのです。

このことはすべての漢方薬に当てはまる、というわけではありませんが、根拠のある定説とされています。また、漢方には「寒熱」「気」「血」「水」など西洋医学にはない独特の観点があります。専門の医師や薬剤師によく相談し、体質に合った漢方治療をおすすめします。(鹿児島県薬剤師会常務理事・沼田真由美)

45. 漢方薬の効果発現



葛根湯の材料の一部。左から芍薬(シャクヤク)、葛根、大棗(タイソウ)

「薬だつ知識」は次回から毎週第2金曜日に掲載します。

くらし面への投稿、意見は〒890-8603 南日本新聞社文化生活部 (住所不要)、電話099(813)5133、ファクス099(813)5180、メールkurashi@373news.com

「令和3年7月16日(金)掲載(45. 漢方薬の効果発現)」